

草の根賞

特定非営利活動法人まちのかぜ

こどもたちの未来を創るという理念のもと、企業や行政と連携し、いちょう団地など地域の協力を得て、子ども食堂を軸に、食の支援や学習支援、清掃活動など幅広い支援を展開。



特別賞

一般社団法人かけはし

不登校のこどもたちの居場所を中心に、学習支援や農業体験などを実施。学校や地域と連携するほか、支援団体をつなぐネットワークを構築することで、こどもたちを地域全体で支えるまちづくりを目指して活動している。



表彰の対象と種類	表彰の種類	対象	件数	副賞
	① 大賞	こども・子育て支援活動のモデルとなる実践的な活動で、地域のこどもや子育て家庭に対する貢献度が高いと認められるもの	1 件	20 万円 / 件
	② 奨励賞 事業者部門 個人・団体部門	地域に密着した活動により特にその実績が著しいと認められるもの	各部門 数件	10 万円 / 件
	③ 草の根賞	複数の団体の連携・協働により特にその効果・実績が著しいと認められる活動及びネットワーク	数 件	4 万円 / 件
	④ 特別賞		1 件	15 万円 / 件

※ 県内において、原則として令和8年4月1日現在で2年以上継続して表彰の対象となる活動に取り組んでいることが必要です。

※ ①～③は知事表彰、④は知事とかながわこどものみらい応援団会長の連名表彰です。

応募方法

所定の応募（推薦）書に必要事項を記載のうえ、郵送してください。

▶ 郵送先 〒231-8588 横浜市中区日本大通1
神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課調整グループ

▶ 応募書やこれまでの受賞団体については、次のアドレスをご覧ください。
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/sy8/shientaisyou.html>

かながわこども・子育て支援大賞 検索



応募締切

令和 8 年 7 月 31 日（金）

※ 当日消印有効

問合せ先

神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課
TEL 045-210-4666 FAX 045-210-8956



神奈川県 PR キャラクター
かながわキンタロウ



神奈川県

KANAGAWA

かながわ こども・子育て支援大賞

第20回 表彰候補を募集します！

県では、事業者や個人・団体等が取り組むこども・子育て支援活動のモデルとなる活動に対して、毎年、かながわこども・子育て支援大賞として表彰しています。皆様が現在取り組まれている活動、あるいは、ご存知の素晴らしい活動について是非ご応募ください。

自薦・他薦
いずれでも
受け付けています



事業者によるこども・子育て支援に関する活動も対象です！

地域のこどもを対象とした職業体験

こども関連施設への寄附活動 等

神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部次世代育成課

第19回 かながわこども・子育て 支援大賞等表彰受賞団体のご紹介

大賞 FUNBURGER

世代も障がいも「分けない社会」を創り、拡げることが目的に、「障がい者ダンサー」×「キッズダンサー」が織りなすインクルーシブダンスチーム「FUNSTAR」を運営。



奨励賞 個人・団体部門 かながわ県医療的ケア児者家族会～つなぐ～

医療的ケア児者とその家族が情報交換や交流ができる場を運営。行政・支援事業者・当事者家族をフラットにつなぐネットワークの要としての役割を果たしている。



奨励賞 個人・団体部門 特定非営利活動法人優タウン

こどもが学校に行っても行かなくても安心して過ごせる社会を作るため、不登校のこどもとその親を対象とした居場所や、こどもたちの表現の場「朝Caféこどもアート」展などを運営。



奨励賞 個人・団体部門 通訳・翻訳グループ カムオン・シェシェ

日本で子育てをしている外国人ママが中心となって、子育て中の言語の壁を解消する通訳・翻訳サポートや、多文化交流の場の運営などを行っている。



奨励賞 個人・団体部門 NPO法人 pena

低出生体重児（リトルベビー）とその家族が悩みを共有する交流会や個別相談等のほか、リトルベビーについて地域の理解を深め、当事者の孤立を防ぐ普及啓発活動を実施。



奨励賞 個人・団体部門 特定非営利活動法人 AYA

病気や障がいのある子どもたちとその家族に、医療従事者の帯同などAYA独自の安全・安心に配慮した体制のもと、スポーツ・芸術・文化など、誰もが安心して楽しめる体験の機会を届けている。



草の根賞 みんなの居場所・れいんぼ～かふえ

こどもたちのための居場所づくりに関心のある市民がつながり、学び合うことで支援の可能性を広げる「子どもの居場所スタートアップサポート講座」を開催。



草の根賞 ぼちぼち

不登校の小中高生とその保護者を対象とした居場所を運営。不登校の子を育てた保護者や不登校経験者であるスタッフが、少し先を歩く先輩として同じ目線に立ち、支援を展開している。



草の根賞 Kids Fine

障害を抱えたこどもたちへ切れ目なく支援を行うため、特に高校を卒業し、環境の大きく変わる時期である18歳から22歳を対象とした交流の場を運営。



草の根賞 特定非営利活動法人地域福祉を考える会

こどもたちが将来に希望を持てる支援を届けたいとの思いから、経済的に困難を抱えた家庭を対象に、学習支援や食の支援など、様々な取組を実施。

